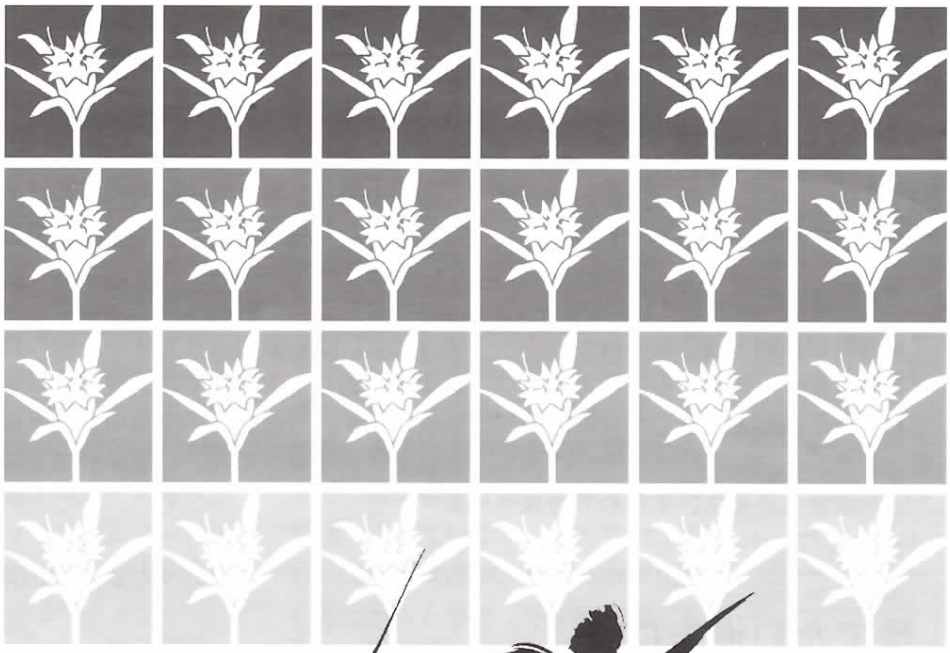


シャロンの花

同窓会報

第 10 号

平成18年度総会・懇親会のお知らせ

日時　5月27日（土）　総会受付 午後3：00
開会 午後3：40
懇親会受付 午後4：10

場所　ホテルポートプラザちば
Tel：043-247-7211（代表）

会費　7，000円

交通機関　JR京葉線 ……千葉みなと駅下車
千葉都市モノレール…　〃　駅前

懇親会だけの出席も大歓迎です。
アトラクションもあります。お楽しみに。

卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合せの上ご来場ください。

お問合わせ・お申込みは、5月17日までに同窓会事務局へ。（Tel：043－251－9221）

「シャロンの花」は校歌の歌い出しです。

昭和26年、創立10周年記念に制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で「純潔」の象徴とされています。

平成18年3月9日発行　（表紙タイトル・イラストデザイン　昭和35年卒　北川広志）

発行者　千葉県立千葉東高等学校
同窓会会長　井戸川　浩

編集部　千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内
〒263-0021　千葉市稲毛区轟町1－18－52
TEL　043－251－9221　FAX 043－255－6575

印刷所　㈲宮坂印刷　TEL 043－251－4537　FAX 043－251－4535

同窓会報「シャロンの花」第10号発刊ご挨拶

千葉県立千葉東高等学校同窓会
会長　井戸川　浩

恩師の先生方はじめ同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

同窓会報「シャロンの花」第10号をお届けいたします。また、本年新たに卒業された全日制・通信制の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。皆さんを伝統ある本校同窓会の会員としてお迎えするにあたり心から歓迎の気持ちを表したいと思います。

通信制の皆さんは今回が最後の卒業生、すなわち最後の通信制同窓会員となりますが、皆さんは永遠に千葉東高校同窓会会員でもあります。

同窓会は、卒業生の皆さんからの寄付で運営しております。同窓会報「シャロンの花」が脆弱な財政基盤の中で10年の永きに亘って発行できたのも、母校山岳部が“2005千葉きらめき総体”で男女アベック優勝できたのも母校愛溢れる同窓生の皆様からの継続的な寄付のお陰と心から感謝申し上げます。

母校と同窓生、同窓生同士を結ぶ「シャロンの花」の発行には、印刷費用よりもメール便の負担が最も大きく財政を圧迫しておりますが、更なるコストダウンの努力を続けます。今後とも、会員の皆様と母校を結ぶ架け橋として「シャロンの花」に暖かいご支援をお願いいたします。

捨てたい過去に救われて

同窓会名誉会長（学校長）
寺　田　信　彦

同窓会に出るのは勇気がいる。だいたい過去のことは思い出したくもないからだ。

「あの時、今くらいの分別があれば、あんな事はしなかったものを。あんな言い方をしなかったものを」と思う。特に若い頃に書いた文章などを読むと寒気がする。同窓会等で、またそれをことさら取り出し懐かしがるふりをしてチクチク指摘する奴がいる。そういえば奴は昔から性悪だったなどと思う。

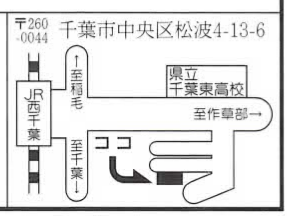
退職を前に今までの教職生活を振り返る機会が多い。捨てたい過去が山ほどだ。しかし、同時に、あの時のあの一瞬の判断を支えてくれたのは、それよりずっと以前に体験したり読んだりしていた過去の蓄積があったればこそだったと思い当たる。

クラスを持ったり、生徒指導や進路指導にかかわった中で、様々な生徒や保護者に接したその間「生（なま）」の場面から得たものは大きい。また、教頭時代、教員と校長との間に立って苦労した経験も役に立った。教育委員会でいくつかのポジションを経験した事も良かったと思っている。そして学校、役所共に上司や同僚に恵まれたのは幸いだった。特に我々は公務員でかつ教育に携わる立場である。それで、生身の人間を扱うのだから、いわゆる勘とか人間力とか称する、えも言われぬ何かの存在なしにこの仕事は語れない。それを身につけるにはまさしく謦咳に接し、師匠のやり方を盗むのが一番良い。その点で得をした過去だった。

読んだ本の中で、最も役立ったのは小説とノンフィクションの戦記物だ。小説からは人の世・人の心についての様々な切り口を学んだ。戦記物については、目的と手段の関係。状況判断とそれに対する責任者の立場からの判断の仕方、組織を動かし他者に働きかけつつ、いかに自らの側の影響下に入れるかという、いわば教育の一側面にも通ずる手法について学んだ。

今にして思えば、あの時、あの一瞬の判断の裏には、過去からの様々な因縁の果てのものがあった。実はそれらが未来に否が応でも繋がっているのではなかろうか。

人の世の営みに、いわば人間の「業（ごう）」のようなものを感ずる昨今である。

西千葉 県立千葉東高校前入る
はり・きゅう・あんまマッサージ・指圧
湯浅治療院
日・祝日も診療
出張は夜12時まで
＝定休日　金曜日＝
☎(043)251-8425(治療室)
252-2009(自　宅)
〒260-0044 千葉市中央区松波4-13-6


千葉セラミック工業株式会社
代表取締役社長　森　信一
（昭和29年卒）
〒263-0031 千葉市稲毛区稲毛東2-10-14
TEL.043-243-7321　FAX.043-247-7451

平成17年度　千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

平成17年5月29日（日）ホテルサンガーデン千葉にて、来賓・会員約80余名が参集して同窓会総会が開催されました。

高橋副会長の司会進行によって総会が始まり、井戸川会長から「同窓会の役員諸氏は、はっきり言ってカネにならない本業外の同窓会活動に無報酬で取り組んでくれており、心から感謝したい。また、同時にそうした活動を寄付金で支えた多くの同窓生有志に心からの謝意を表したい。中でも『シャロンの花』第8号で会活動が資金面で厳しい実情を訴えたところ、お一人で10万円も寄付された方もおられ大変心強い思いをした。改めて感謝したい。本年は千葉県が主催する“きらめき総体”開催の年であり、母校の山岳部が男女とも入賞の最有力候補になっている。是非応援をお願いしたい。本日は、多くの同窓生、恩師の先生方においでいただいた。ひと時思い出を楽しんで頂きたい」旨、挨拶があり、続いて寺田名誉会長から「母校生徒が文武両面にわたり努力している姿の報告と、平素からの教育活動に対する同窓会の支援に対する謝辞、高校総体での山岳部入賞の期待と同窓会からの資金面の多大な援助に対する謝辞」を頂きました。

続いて、来賓の畠山一郎先生（元校長）から、「東高には教頭・校長と2度通算13年間に亘ってお世話になり、沢山の先生方や生徒、同窓生とご縁を頂いた。自分は東高を母校と思っている」という心温まるご挨拶を頂きました。

続いて、小塚常任幹事を議長に選出し、すべての報告審議事項が提案通り承認され、総会は滞りなく終了しました。

引き続いて懇親会に入り、井戸川会長から「今年もより良い会活動になるよう頑張る」旨の決意表明あった後、来賓の須田元校長先生から「何箇所かの高校を体験したが、中でも昭和56年から58年まで校長をした千葉東高校は創立40周年の行事もあり特に思い出深い。その時の楽しい思い出がその後の楽しい生活を形作っている」旨のご挨拶がありました。

その後、アトラクションに入り昨年好評だった本校卒業生の元プロ歌手榎本（竹沢）光子さん（昭29卒）、県下有数のカラオケ名人吉橋重夫（昭34卒）さんに本年も再登場いただき、吉橋さんには、「下北漁歌」など5曲、竹沢さんには「喫茶店の片隅で」など懐かしい唄5曲で盛り上げていただきました。

最後に、参会者全員で♪シャロンの花と…で始まる伝統の校歌を斉唱し、来年の再会を約して散会となりました。

シャロン31会（サンイチ）
（旧 千葉三高 昭和31年卒業）
有 志 一 同
母校の発展をお祈りします。

貸ビル業
ＪＲ蘇我駅西口前
新月
千葉市中央区今井2-4-7
043-261-2850
大森啓護　昭和31年卒・野球部

平成16年度千葉東高等学校同窓会決算書

総　収　入　¥5,502,828
総　支　出　¥4,893,786
残　　額　¥　609,042…次年度へ繰越

収入の部　（単位：円）

項　目	収入済額
1. 会費	1,842,000
2. 入会金	307,000
3. 前年度繰越金	401,664
4. 同窓会活動維持基金	2,402,160
5. 雑収入	550,004
計	5,502,828

支出の部　（単位：円）

項　目	支出済額
1. 運営費	1,239,094
(1) 会議費	30,000
(2) 総会費	457,250
(3) 通信費	230,570
(4) 慶弔費	442,929
(5) 旅費	0
(6) 雑費	78,345
2. 事業費	3,654,692
(1) 同窓会報発行費	3,114,692
(2) 母校部活動支援費	390,000
(3) 進路学習支援費	0
(4) 海外派遣支援費	150,000
計	4,893,786

基金繰入金会計

平成17年３月末現在　¥9,830,545

（単位：円）

項　目	収入	支出
前年度繰越金	9,828,183	0
利息	2,362	
計	9,830,545	0

創立70周年記念事業基金

平成17年３月末現在　¥3,804,152

（単位：円）

項　目	収入	支出
前年度繰越金	2,497,148	0
利息	4	
今年度入金分	1,307,000	
計	3,804,152	0

会計監査報告

平成16年度同窓会会計の出納簿、証拠書類及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処理が正確であり支出も適正であることを認めたので、ここに報告します。

平成17年５月15日

千葉県立千葉東高等学校同窓会

会計監査　石井洋子 ㊞
　　澤田繁信 ㊞

平成17年度千葉東高等学校同窓会費予算書

収入の部　（単位：円）

項　目	予算額
1. 繰越金	609,042
2. 会費	1,830,000
3. 入会金	305,000
4. 同窓会活動維持基金	2,000,000
5. 総会会費	400,000
6. 広告代	150,000
7. 雑収入	100,000
計	5,394,042

支出の部　（単位：円）

項　目	予算額
1. 運営費	1,410,000
(1) 会議費	100,000
(2) 総会費	500,000
(3) 通信費	200,000
(4) 慶弔費	500,000
(5) 旅費	10,000
(6) 雑費	100,000
2. 事業費	3,580,000
(1) 同窓会報発行費	3,000,000
(2) 母校部活動支援費	400,000
(3) 進路学習支援費	30,000
(4) 海外派遣支援費	150,000
3. 予備費	404,042
計	5,394,042

平成16年度事業計画実施状況

1．総　会　　平成16年５月23日（日）
　　ホテルサンガーデン千葉にて
　　70名が参集して実施

2．母校教育活動の後援、学校行事参加活動

① 部活動（全国大会出場）支援 山岳部、通信制各部全国定通大会

② 海外留学引率者支援
　H17. 2.19から国際交流プログラム米国派遣団としてミシガン州クラークストン高校へ派遣

③ 対外試合・発表会等支援
　H16. 9.26 音楽部関東合唱コンクール出場　銅賞受賞

④ 卒業式・入学式・体育祭・文化祭等行事参列・参観等
　H16. 4. 7 全日制入学式参列
　H16. 4.18 通信制入学式参列
　H16. 5. 4 吹奏楽部定期演奏会参観
　H16. 6. 5 マンドリン楽部定期演奏会参観
　H16. 6. 6 通信制体育祭参観
　H16. 9.11 東雲祭参観
　H16.11.17 東雲ネット“さわやかミニトーク”参加
　H17. 3. 7 全日制卒業式参列
　H17. 3.13 通信制卒業式参列

3．同窓会会報「シャロンの花」第９号 発行
　H17. 3. 7「シャロンの花」第９号 25,000部発行

4．役員会（主要決定事項）
◦平成16年 7月 4日（日）
　平成17年の総会場所についてサンガーデンで決定
　同窓会名簿発行は町村合併が多いため２年延長
◦平成16年 9月 5日（日）
　総会反省会、社会的に活躍している卒業生の把握についての討議
◦平成16年11月 7日（日）
　総会開催日程5月29日で決定、会報のインターネット配信について討議
◦平成16年12月19日（日）
　同窓会報「シャロンの花」記事確認
◦平成17年 1月30日（日）
　中村千枝子受任幹事が12月23日衛生看護科支部発足に伴い支部代表になった
◦平成17年 2月20日（日）
　アトラクション出演者最終決定
◦平成17年 4月17日（日）
　総会関係詳細検討、同窓会役員改選(案)決定

平成17年度事業計画

1．総　会　　平成17年５月29日（日）
　　ホテルサンガーデン千葉

2．同窓会会報「シャロンの花」第10号発行

3．同窓生・恩師対外発表会等参観支援・顕彰活動

4．同窓会維持基金・創立100周年祈念70周年記念事業基金等募金活動

5．母校教育活動の後援、学校行事参加活動

① 進路学習支援（先輩による実業界報告と懇談、事業所訪問）

② 部活動（全国大会出場）支援

③ 海外留学引率者支援

④ 対外発表会等支援

⑤ 卒業式・入学式・体育祭・東雲祭等行事参列・参観等

6．創立100周年祈念70周年記念事業推進活動

7．支部発足支援活動

8．役員会　　原則隔月第二日曜日（８月・１月休会）
　　（但し、通信制スクーリング開催日準拠）

特別インタビュー

母校は今…

寺田校長に聞く

井戸川：いつも同窓会の活動に暖かいご理解をいただきありがとうございます。

寺　田：いえいえ。同窓会、広くは同窓会会員の皆様というべきでしょうか、そうした皆さんからの本校に対する物心両面にわたるご支援を本当にありがたいと思っています。

井戸川：さて、先生。前回は本校の教育目標（努力目標）である⑴学力の充実、⑵自立的行動と責任、⑶基礎体力の向上ということを掲げ、様々な教育活動をされておられることを伺いました。１年たった今、その成果はどのような形で出てきていますでしょうか。

現役合格率68.9％に上昇
日本学生科学賞１等入選

寺　田：本校は、平成15年度、県教委から「進学指導重点指定校」に指定されました。これを契機に本校の未来像のコンセプトを「教養の復興」としました。この制度の特徴の一つに教員の公募制があります。それは、本校に勤務することを希望する先生を、能力、熱意、指導力などの多面的な基準で選考して配属を決めるというものです。重点指定校となった成果は、大学の合格率に顕著に現われました。

年　度	国公立大学	私立大学	現役合格率
H13年	73名	412名	56.9%
H14年	59名	333名	53.7%
H15年	81名	402名	58.0%
H16年	106名	423名	68.9%

上表のごとく現役合格率68.9％と前年を11ポイントも上回る顕著な結果になりました。尚、H15に続きH16も国公立現役合格者数は千葉県下１位、中でも千葉大合格者は全国１位という結果です。また、平成15年～17年度にかけて文科省の「学力向上フロンティアハイスクール」の研究指定事業に取り組んでいることを報告しましたが、ここでも例えば千葉大との高大連携をすすめ、昨年春から千葉大に通って微生物の扱い方の指導を受けた化学部の生徒４人が「納豆菌のネバネバ成分の生産とその凝集力の研究」というテーマで第49回日本学生科学賞入選1等の栄誉に輝きました。

井戸川：すばらしい成果ですね。生徒は人間的にも社会的にも未熟ではありますが入学時の資質の良さ、素直さなどに加え優秀で熱意のある先生方の良き指導があって初めて大きな成果を生み出す生徒に変貌する典型的な事例ですね。指導力のある優秀な先生を得るという点では「進学指導重点指定校」に指定されたことは幸いでしたね。

寺　田：そうですね。指導にあたった先生方は、土曜日も無給で生徒に進学指導をし、夏の暑い時は冷房の無い教室で大汗をかきながら生徒とともに頑張ってくれました。むろん同時に部活動の指導にも熱心に取り組んでいます。高大連携についても今年からは直接本校と千葉大教育学部が協定を交わすことになり、千葉大へ通って授業を受けていたのが、今後は千葉大が出前授業をしてくれるなど一層連携が強化されることになりました。

井戸川：本校では、将来の日本のリーダーたる能力を鍛えるため、文武両道を標榜して知・徳・体のバランスを取るようにしているとお聞きしていますが、昨年千葉県で行われた高校総体でも大きな成果がありましたね。

山岳部高校総体で県勢初
男女アベック優勝の快挙

寺　田：ええ、前年の島根総体では男子は第３位でしたが、女子は15位と低迷しました。千葉県で開催されるきらめき総体では、雪辱を期して、準備に十分な時間を掛けて取り組んだ成果が出ました。指導に当たった高山先生は本校で10年間の指導歴があります。山岳部には同窓会からも10年間にわたる物心両面の支援を頂きました。おかげさまで、高校総体史上初の県勢Vそれもアベック制覇という偉業を成し遂げてくれました。

井戸川：ここでも同窓会がお役に立てて嬉しいですね。価値あるアベック制覇です。学校では学力も部活も如何に指導に当たる先生の指導力が重要かということでしょうね。

音楽部　関東大会13年ぶりの金賞
ラグビー部新人初の関東大会へ

寺　田：本当に同窓会の支援には感謝しております。このほかにも、陸上競技では千葉県高校新人大会で１年

生の女子が800mで優勝、ラグビー部も千葉県高校新人大会で優勝し、第6回関東大会に出場します。なお、監督の張能先生は本校の卒業生です。音楽部は千葉県合唱連盟主催の合唱アンサンブルコンテストで初の男女アベック金賞受賞を果たし関東大会でも13年ぶりの金賞を受賞しました。特に男声アンサンブルの金賞受賞は珍しく、本校の存在を天下に示した快挙です。

井戸川：すばらしい後輩の活躍に目頭が熱くなる思いがします。これから他のクラブも活躍してくれることを期待しています。さて、母校は歴代の校長先生はじめ多くの関係者の努力の積み上げと現在の寺田先生の4年間にわたる並々ならぬご尽力のおかげで県下有数の進学校となり、「進学ブランド校」を形成してきました。これからの母校はどうなっていくのかといった展望を聞かせてください。

「教養の復興」をコンセプトに 文武は一道 “進学ブランド校” への歩み

寺　田：平成元年には97,800人だった中学卒業生が平成20年には54,000人になるという少子化の中で、さらに今年から通信制は大宮高へ移管され独立校となります。千葉東高は実質普通課程だけになり、平成20年度からは単位制も導入されます。本校がいわゆる“進学ブランド校”になってきたと思います。益々優秀な生徒が入学してくるでありましょうし、大学等の進学先も一流大学で占められるでしょう。“ブランド”といってもいわゆる受験にさえ強ければよいという学校では、将来はないと思います。私は現在の政治・経済・社会を見るにつけ本校の生徒には人間としての本質的なもの、根源的なものを学んで貰いたいと思い、勉強のできることは大切であるが、それよりも個人として自立した人間になるよう「教養の復興」をコンセプトにして生徒指導に当たりたいと思っています。すなわち知・徳・体のバランスの取れた生徒であって欲しいと切望しておりますし、将来のリーダーは、“文武は一道”として人間性の中にあるべきだと思います。そういう人を育てる方向で今後、学校が発展していってくれればと思います。

井戸川：「教養の復興」まさに今それが求められていますね。世のため、人のため、国家社会の役に立つ人間作りに共感しますね。本日はお忙しい中、ありがとうございました。母校のますますの発展を期待しています。

活躍する母校卒業生

元文科省技官　平田　安弘 氏（昭和34年卒）

世界で4番目の人工衛星「おおすみ」とともに

1．日本初の人工衛星成功の経緯

井戸川：本日はお忙しいところお時間をいただきありがとうございました。早速ですが、日本初の人工衛星成功の経緯についてお聞かせ下さい。

平　田：今もなお多くの謎を秘めた宇宙、この未知の世界の解明に世界の学会から注目される成果で貢献してきたのが東大の観測ロケットです。世界では、当時既に人工衛星を打ち上げていたフランスの十分の一の予算で、一大学が独力でロケットを打ち上げた例はありません。1958年世界各国が協力して地球周辺の現象を観測することになり、日本は南極観測とともに東大のロケットも参加することになりました。世界の主流は液体燃料が先行していましたが、日本は遅れを取り戻すために構造が簡単な固体燃料にしました。

カッパ（K）、ラムダ（L）と経験を積み、4段式ロケットまで進化してきましたが、1号機から4号機までは失敗の連続でした。1970年2月11日鹿児島県内之浦町の発射基地から5度目の挑戦機L-4S-5号機が打ち上げられ、成功しました。千葉東高校のすぐお隣の旧東京大学生産技術研究所（現千葉大学）で糸川教授が始めたペンシル型ロケット以来苦節15年にして世界でも珍しい無誘導ロケットで日本初の人工衛星が誕生しました。この人工衛星は打上げ地にちなんで「おおすみ」と命名され以後33年間2003年に大気圏で消滅する

まで地球を回り続けたのです。この成功以来、これまで26基の衛星・探査機が打ち上げられ、宇宙科学研究に多大な貢献を果たしています。

2．宇宙科学との出会い

井戸川：母校のお隣との縁、どういうきっかけからこの道に入られたのですか。

平　田：私は、昭和34年に母校卒業後一旦は京成電鉄に就職しました。就職の傍ら千葉工大の2部に通い機械工学の勉強をしていました。親しい友人から、東大の先生が機械を勉強している学生が欲しいといってるが、ということで生産技術研究所の森先生を紹介され、その研究室に入りました。

先生は材料力学の専門でロケットの構造機能や打上げ機（ランチャー）を担当していました。

およそ40年間の公務員（技官）生活の中で、20年間は構造機能とランチャーについての仕事で、後の20年間は衛星やロケットの振動及び胴釣合いなど機械環境試験の実験作業に従事しました。昭和36年頃は秋田県の道川でペンシル型カッパロケットを打ち上げていた頃です。実験が始まると、私たちは下っ端でしたから、冬などは雪の中を夜行列車で上野から秋田まで14時間かけて4人掛けで眠ることもできずに行きました。年間150日くらいは実験をしていました。暴発事故などもあり、またロケットの性能が上がって、打ち上げると大陸に届いてしまうようにもなったり、色々なことが重なって糸川先生が鹿児島県大隅半島にある内之浦に移すことになったのです。

3．内之浦でのランチャー運用と「おおすみ」の成功

井戸川：厳しい実験現場ですが何か改良はしましたか？

平　田：打ち上げが風雨で中止になると角度をつけたランチャーを下げたり、ロケットが雨にぬれないように屋内へ移動したり、再開となればまた元のようにランチャーの仰角を調整したりと大勢の人と時間がかかりますのでコストダウンのため屋内でも運用できるように「KS用ロケットランチャードームの設計と運用」を担当しました。“カッパ型、S-310、520専用の屋内発射装置-天蓋開閉式発射保護装置”という長ったらしい名前ですが、これは今でも宇宙航空研究開発機構内之浦宇宙空間観測所にあり、（KSセンターといっています）「おおすみ」はこのランチャーから打ち上げられました。ランチャードームは日程や経費の面で大いに貢献し賞賛の声すら上がりました。これは森先生が後見役に後に宇宙科学研究所長になられる松尾先生をつけてくれ、製造メーカーとの交渉などもやりやすくしてくれたことが大きいですし、メーカーさんも森先生のことだからと非常に協力してくれました。

日本初の衛星の打ち上げを成功させたということは多くの方々の努力と協力に負うところ大でありますが、自分たちのかかわった装置が役立ったことを今でも誇りに思っています。

4．夢を諦めないで

井戸川：長年の宇宙技術の向上に半生をささげたわけですが座右の銘のようなものはありますか？

平　田：やはりこういうプロジェクトはチームワークが大事だと思います。糸川先生を中心に色々な分野の方々が日の丸衛星を打ち上げようという夢に挑戦して成功に至ったわけですから。宇宙開発に限らないことですが、簡単に物事を諦めないで粘り強く自分の得意とすることをすこしづつでも積み上げていくのが大切ではないかと思います。分からなければ謙虚に先輩や仲間に聞くことも大切です。私は今、嘱託として相模原キャンパスで広報の仕事をしています。内之浦での打ち上げがある時はそちらで打ち上げ要員として動員されますが。相模原キャンパスは学生さんや一般の方でも見学できますので、どうか日本の宇宙開発の現状と夢工房の現場をご見学下さい。

見学は事前申込み制になっていますので、下記にご連絡下さい。

連絡先：宇宙航空研究開発機構〈JAXA〉
広報係　042-759-8008

宇宙科学研究本部にて（相模原市）

通信制体育祭

平成17年10月9日、大宮移管を目前にした千葉東高通信制最後の体育祭が母校体育館で開催された。

通信制の体育祭は例年10月開催であったが、昨年は6月に開催したところ、季節柄開催当日は雨だったため、体育館内での実施となった。

そこで、今年こそはと晴天を期して10月に戻したが、残念ながらあいにく朝から雨。結局、今年もグラウンドで思い切り競技することはできず、体育館内の開催を余儀なくされ、競技種目もグラウンド競技に重点を置いた9種目目から、ボール運び競走、玉入れ風船割りゲーム、紅白対抗縄跳び、パン食い競走、綱引きなど体育館で楽しめ、かつ誰もが参加できる競技6種目に縮小して行われた。最後の体育祭ということもあり、老い？も若きも熱気と汗と笑いの中で、名残を惜しむような大会になり、けが人もなく無事終了した。

（同窓会副会長 石橋　康郎 通21回Ｓ52卒）

東雲祭参観記

東雲祭よありがとう

平成17年9月10日(土)・11日(日) の両日母校東雲祭が開催され日曜日の午後に参観してきました。

第42回といいますから正に“伝統ある”生徒活動の公開行事ということになります。「今年も良くまとまった内容ですよ」と予め校長先生からお聞きしていましたので、同道した小林副会長、石橋副会長、市原書記とともに「今年はどんな展観があるだろう」と期待しながら校門をくぐりました。

今年のテーマは「アズマックス（東高が最高)」です。東をアズマと読んでそれが最高（マックス）というのにかけているのでしょう。自分たちの学校や学園生活を「最高！」と言える在校生の気持ちがとても嬉しく思いました。今年の参加グループは24クラス、13部活、8つの同好会と有志グループ、合わせて45団体。出展者側も多いが、参観者はもっと多く校内は若さと活気が溢れて大盛況。時間の関係もあり、すべては拝見できませんでしたが、圧巻は音楽的にも大変高度な分野であるミュージカルに取り組んだ3年3組の「オペラ座の怪人」。歌も台詞回しも、踊りも、大道具、小道具、衣装にも工夫が凝らされ、完璧と言うか、「良くぞここまでやったな」という思いがしました。後でお聞きしたら、参観者の投票により、東雲祭大賞、装飾大賞、演劇大賞、Ｔシャツ大賞など大賞を総なめにしたそうです。

音楽部は、そのレベルの高さをうかがわせる歌唱を披露し、ポピュラーなものからアニメ系などのアカペラでのミニコンサート、観客も劇中に取り込んだコーラスラインなど愉しませてくれました。

恒例となった水泳部員と有志からなるウォーターボーイズによる「オトコのシンクロ」もコミカルで楽しい。今回も「シャロンの花」の記事を見てとか、昨年も記事を見て参観して感動したので今年も来たなど、OB・OGにもお会いし、「とても楽しい。感動した」というお話を聞きました。皆さんも是非ご参観下さい。

東雲祭は見るものに「若さとパワー」を与えてくれる不思議な力があります。東雲祭は私たち同窓生に「楽しかった青春時代」を思い起こさせてくれます。東雲祭には参観後にその楽しさや色々な面から思わず「ありがとう」と呟いてしまうような不思議な魅力があります。

（同窓会副会長 高橋　一郎 高第9回Ｓ32卒）

時のない世界

～マンドリン部定期演奏会報告～

6月15日、マンドリン部の定期演奏会。

第1部はクラシック曲やオリジナルのマンドリン楽曲、第2部はギターパート、少人数ながら変幻自在に幾度と姿を変える。第3部ではポップスで、時に追われる世界に住む少女アリスがふと迷い込んだ時のない世界を旅する、という筋書きの寸劇が加わる。第4部はソロパートの豪華な揃い踏みや伝統曲「ひき潮」などからなるポップスで、定演を締めくくるに相応しい。

マンドリン部の定演は長時間だが、身を預けると、第3部の寸劇ではないがまるで時のない世界に迷い込んだよう。数多くの思い出、培った友情など込み上げるあらゆる感情が全て川の如く合流し時を忘れさせるような、ゆったりとした流れで全てを包み込む。

終演を迎えれば、確実に説明し難い感動を生み、その後もその余韻を伴って、生きる夢や希望など、多くを与えてくれる。

時のある現実世界に身を置きつつ、しばし時のない仮想世界に遊ぶ。同窓生の皆さんも一度、定演でこの時のない世界を、楽しんでみませんか？

（同窓会書記 市原　俊介 高校第45回Ｈ５卒）

東雲ネット さわやかミニトーク盛会裡に終了

去る平成17年11月14日（月）母校セミナーハウスにて恒例の「東雲ネット」“さわやかミニトーク”が開催されました。同窓会からは、高橋副会長はじめ主だった役員が出席して、轟保育園長、松波商工振興会長、PTA役員、教職員とともに、5時限目の授業参観のあと、学校・生徒を取り巻く様々な問題について懇談が行われました。

学校からは、全日制3年生の進路の状況と今年度からはじめたインターンシップ、東雲祭の取り組みについて報告、通信制からは第50回卒業式を迎える今年度で移転されることになったことをふまえ、これまでの理解と協力に謝辞がありました。同窓会からは、母校が高いレベルを維持していることは大変喜ばしいが、勉強だけではなく部活動やその他の有意義な活動にも頑張って欲しいという意見がありました。話題の大半は「高校生のマナー」についてでした。服装、自転車の乗り方、歩き方、横断歩道の渡り方など登下校時における生徒の様子は社会全体としてのマナーの低下とあいまって大人の気になるところです。家庭の問題、学校の問題、地域の問題として、それぞれが一緒に声を掛けていく、同時に大人も良き手本を示していくという一見地味な手段だが、いずれか一つでもかければマナーは育たないだろうということで出席者の共通認識を得ました。このプログラムは学校とそれを取り巻く周辺地域との建設的な協調、地域コミュニティー作り、開かれた学校作り、ネットワーク作りなどを目指し千葉県教育委員会が学校を通じて取組む《学校を核とした1000ヶ所ミニ集会》事業です。今後更に地域・学校・家庭の連携を深め、より良い地域コミュニティーを作ろうということを申し合わせ終了しました。

（教頭　高橋　清英　S50卒）

在校生バンザイ!!

県勢初の快挙

－郷土で開催の千葉きらめき総体－

校長インタビューでも紹介されましたが、母校山岳部は女子B隊、男子C隊がともに初優勝。インターハイ史上初めて本県勢の優勝、しかも同一高校アベック優勝という快挙でした。

校長室に高山先生、女子平澤悠花リーダー、辻村舞子さん、男子舘野聡也リーダー、野辺慎吏さんたちが集まってくれました。

井戸川：皆さんおめでとう。今回の快挙は卒業生としてとても嬉しい。皆さんの努力の賜物ですね。

高　山：（優勝まで）10年かかりましたが、この間ずっと応援してくれた同窓会には心から感謝しています。当面の目標は平成18年の奈良大会で連覇することですが今後もご支援下さい。

平　澤：女子の部員が少なくチーム作りは大変でしたがみんなでチームワークをとったのがよかったと思います。

舘　野：昨年の経験が生きました。初日のテスト（満点）から気分良く、計画通りにできました。

左から 高山先生、辻村、平澤、井戸川会長、舘野、野辺

合唱コンクール 13年ぶりに金賞

全日本合唱コンクール千葉県コンクール（8／21）千葉市で開催。高校A部門　金賞受賞。

第60回関東合唱コンクール（9／25）水戸市で開催。高校Aの部で金賞受賞。

（顧問の青木美和子先生の話）

金賞は13年ぶりの受賞です。同窓会の支援に感謝しています。

県高校新人陸上女子 800ｍに新星

去る10月に開催された、千葉県高校新人陸上大会において、母校１年 芦田 望さんが優勝。

ラグビー新人 初の関東大会へ

平成18年１月28日、柏市の流通経大グラウンドで、母校は強敵千葉工と準決勝を行い、接戦を制し、初の第６回関東高校新人大会に進出することになりました。監督の張能先生は、母校卒業生で部活もラグビー部でした。

（張能先生の話）

「強豪の胸を借りながら、何年かかってもステップバイステップで花園を目指そう」

ラグビー部　張能先生と生徒たち

各地で同期会・支部会・地区会 活発に開催

同窓会報「シャロンの花」発行が機縁となって各地で同期会・部活動ＯＢ会、クラス会などの活動が盛んになってきました。今回も各地から編集部に寄せられたご寄稿をご紹介します。

◆高女２・３回生同期会（昭和21･22年３月卒業）

▷平成17年６月18日

千葉ワシントンホテル　銀坐15名参加

＜幹事から一言＞

本会はこれまで毎年定期的に開催してまいりましたが、昨年の会合を最後に解散いたしました。今回は常連に混じって久しぶりの方のお顔も見え、お互い声をかけるやいなや瞬時に学生時代の思い出がよみがえり、この上ない楽しいひと時を過せました。お世話を受け持ちご尽力下さった方々や、ご協力いただいた皆様の若さを失わない不滅の情熱に感謝し乾杯した

い思いです。宴が終わりに近づくに連れ、今後は有志による会合や、18年度は喜寿を祝う集いを、といった声も聞かれ、この想いを胸に再会を誓って解散いたしました。

（高女第２回昭21卒 小林美代子）

◆昭和34年卒（高校第11回）３Ｅクラス会

▷平成18年１月21日（土）

千葉市“ほていや”にて、旧３年E組担任だった井下田　博先生を囲み11名が集まりクラス会を開催しました。元気で働いているものもいますが、ほとんどはサンデー毎日の方々ばかり。しかし、老人大学で資格を取得しようとか、住居地の自治会役員をしていたり、世のため人のためにがんばっています。

＜幹事から一言＞

昨年から毎年１月に定期的に集まることにしましたが、バリエーションとして、季節の良い暖かい時期にもやって欲しいとか、千葉ばかりではなく東京・神奈川在住者のために東京開催も考えて欲しいなどの要望が出されました。また、クラス会は一瞬で高校時代に戻れるタイムマシンの役割があるのか、京都へ思い出の修学旅行をしたいという声も出ました。

（幹事　井戸川　浩）

人間生命の運動法則を研究する科学

千葉人間科学協会

理事長　小塚興作（高校第１１回卒）
千葉市若葉区桜木町３３０－５０
０４３（２３１）９２１５

宮川電気通信工業株式会社

〒260-0018 千葉市中央区院内1－2－1
ＴＥＬ 043－225－1311（大代表音声メール）
043－225－1451（保守・障害受付）
ＦＡＸ 043－222－1330
代表取締役社長　宮川欣丈（昭和37年卒）
専務取締役　宮川忠史（昭和39年卒）
ＴＥＬ 043－225－1312（ダイヤルイン）
morita@miyakawadentsukou.co.jp

野球部ＯＢ新年会

平成18年１月28日（土）千葉市京成ホテル“ミラマーレ”にて開催。

本年は役員が改選され（右表ご参照）、父母会渡辺代表代理、コーチ関　忠昭ＯＢをはじめ30余名の出席を得ました。共田竜二前会長の乾杯、藤代　優新会長（ユアエルム京成常務）の年頭挨拶、関コーチによる母校野球部の現状報告、渡辺 彊 相談役が70歳で千葉県シルバー野球代表として甲子園のマウンドに立ったエピソードなどの紹介があり大いに盛り上がりました。

「野球部ＯＢ会」の目的は、会員相互の親睦と母校野球部の支援ですが、創部55年でＯＢ総数500余名を出しながら、それぞれの事情から年間会費納入者50余名という苦しい台所も報告され、一層の納入者増を期待しています。

ＯＢ有志としては、毎年ささやかな援助を母校野球部に提供していますが、自分たちの青春をかけてやり通してきた夢やきつい練習や思い出を若い選手たちの今の姿に重ね合わせて、野球部が存続する限り、支援だけは続けていこう、そしていつの日か母校野球部が、自分たちが果たしえなかった夢の「甲子園出場」を達成できる日を期待しようと誓い合った会合でした。

（同窓会常任幹事　大森啓護　Ｓ31卒）

役職	卒年	氏名
相談役	Ｓ28	渡辺　彊
名誉会長	Ｓ32	共田竜二
会長	Ｓ45	藤代　優
副会長 理事長	Ｓ41	伊東　哲
副会長 （ＯＢ連合会担当）	Ｓ45	鈴木利雄
副会長	Ｓ46	吉原三千
副理事長 （ＯＢ連合会担当）	Ｓ41	須藤　徹
副理事長	Ｓ46	水野政之
副理事長 （ＯＢ連合会担当）	Ｓ51	高橋敏行
理事長 （事務・会計）	Ｓ48	市原　啓
理事	Ｓ54	松本哲也
理事	Ｓ58	角畑博文
理事	Ｓ61	栗本将生
理事	Ｈ４	安西和夫
理事	Ｈ５	池田哲也
理事	Ｈ10	佐藤貴文
理事	Ｓ37	関　忠昭
理事	Ｓ49	峰谷　守

お知らせ

■ **昭和32年卒（高校第9回）同期会**

平成18年の同期会は、卒業後50周年という記念すべきときです。目下有志による幹事会で５月か６月に実施することで準備しています。

詳細決定後ご連絡いたしますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

（高橋一郎 同窓会副会長）

編集部からのお願い

■ 同期会、クラス会、部活ＯＢ会など、母校卒業者の集まりの予告、実施報告（写真歓迎）がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」など母校同窓会事務局までお知らせ下さい。（原稿・写真は原則としてお返しできませんのでご承知おきください）

■ 同窓会報の編集スタッフ及び総会の企画・運営等、同窓会の仕事に興味を持ち、お手伝いしてくださる方を募集しております。

■ 会員の住所・氏名等の変更はご連絡くださいますようお願いいたします。

上記のいずれのお問い合わせ・ご連絡は、同窓会事務局までお願いいたします。

＊同窓会事務局＊
千葉県立千葉東高等学校内
〒263-0021
千葉県稲毛区轟町 1-18-52
ＴＥＬ：043-251-9221
ＦＡＸ：043-255-6575

leoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleo

各種看板製造致します。
大型インクジェットで写真看板ＯＫ！！

看板・工事用・安全・保安用品

レオ産業株式会社

松浦隆一（Ｓ.42年卒）

千葉市花見川区幕張本郷７－５－１２
ＴＥＬ ０４３－２７５－１４１１
ＦＡＸ ０４３－２７５－１４７８
ホームページhttp：//home.att.ne.jp/red/leo

leoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleoleo

ベンリーショップ

四街道店
Tel/Fax. 043－421－2277
浸透印（認印、訂正印）15分～
（朱肉のいらないハンコ）
中村千枝子（S.44年卒）
◆印鑑作成（実印、会社印）2時間より
◆各種印刷　名刺　15分～
葉書　30分～
◆靴修理、合いカギ作成、カバン修理
◆傘修理、刃とぎ、表札、ネーム彫刻

創立100周年祈念 70周年記念事業基金
同窓会活動維持基金

引き続いて ご協力を

60周年記念事業では多くの皆様からのご芳志をいただき、誠にありがとうございました。また、同窓会活動維持基金によりまして今回も皆様に会報をお届けすることができました。

メール便の負担が大きい中、毎年、継続的に会報を発行するためには、一人でも多くの方々からのご賛同を得て基金の充実を図らなければなりません。

お手数ながら、同封の郵便振替用紙にて１口２千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいますようお願い申しあげます。

郵便振替口座　00160－8－148932　千葉東高等学校同窓会

編・集・後・記

とうとう10号になりました。会報発行から10年が経過したということですね。

記事不足や時間不足に苦しみながら、よくやってきたなという思いとともに、過ぎてしまえば一瞬だという思いが交錯しています。

この間、多くの方々のご協力を頂きました。母校に寄せる皆様のお気持ちをひしひしと感じた10年間でした。改めて感謝申し上げます。

11号もお楽しみに。

（編集委員一同）

みどりのお山にかこまれた幼稚園
若松台幼稚園

当園は、３千坪を越える園庭、四方木々に囲まれた自然の中で、
・友だちとのふれあいを大切にする。
・情操豊かな心と自立心の芽生えを養う。
集団の中で基本的習慣は勿論のこと、望ましい経験を積み、個性を伸ばすことを念頭に日々研鑽を重ね、年齢に応じ同じ経験をさせ、どの子にも喜びと自信が持てる保育活動を展開し、毎日の積み重ねと愛情を持って元気・根気・やる気がそだつよう日々努力しています。

理事長　田中信行（昭45卒）
〒264-0021 千葉市若葉区若松町401
ＴＥＬ 043-232-5177
ＦＡＸ 043-232-5178

木造在来　鉄骨アーム工法
特許第1833643号
株式会社 石川建設
代表取締役　石川公之
宅地建物取引主任者　（昭和45年卒）
松ヶ丘支店　千葉市中央区大森町477－3　☎043(264)5111(代)
白旗支店　千葉市中央区白旗3－11－19　FAX043(264)5113
本社　千葉市中央区大森町438
千葉県知事 免許不動産（8）第4549号　建築(般8)第516号
発明者　石川公之
特許　第1678947号木造住宅の筋違窓
特許　第1833643号2階建木造住宅の組立工法

ギャレックスチバ株式会社
―営業品目―
学校体育衣料／スポーツ用品／カバン・校章
名札・腕章・旗／トロフィー／インテリア用品
オリジナルＴシャツ・トレーナー
イベントジャンパー　＞プリント加工
代表取締役
澤田繁信
（昭和46年卒）
〒260-0834千葉市中央区今井3-1-9
TEL043(261)4528
FAX043(265)5446
E-mail:jericle@olive.ocn.ne.jp

きれいになる・元気になる自然食
マクロビオティック料理教室
講師　石井ゆかり
（昭和51年3月卒）
※出張教室受け承ります。
TEL 043-294-9387／FAX 043-294-9388

アパマンショップ
NETWORK
ISO 9001 認証取得！
アパート・マンションお部屋探しは…
賃貸　売買　土地活用
株式会社 高品ハウジング
代表取締役　山中　操（昭和44年卒）
本店　千葉市若葉区高品町1585-1　TEL043-232-7342 FAX043-232-0696
都賀駅前支店　千葉市若葉区西都賀3-19-4　TEL043-290-1008 FAX043-287-0400
都賀支店　千葉市若葉区都賀3-4-1　TEL043-226-4521 FAX043-226-4520
四街道支店　四街道市大日460-1　TEL043-304-2820 FAX043-304-2821
千葉駅前支店　千葉市中央区弁天1-2-1　TEL043-206-1777 FAX043-206-1778
(財)日本賃貸管理協会員
千葉市宅建協同組合員
千葉県知事免許(9)第５２０６号